

1. 科目名（単位数）	日本史（2単位）	3. 科目番号	GELA1327 GELA1347
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義 ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「国際関係論」を履修予定の学生は本科目を選択することをお勧めします。本科目の履修によって左記科目の学習を充実させることができます。		
7. 講義概要	グローバルな時代と呼ばれている現代、国と国、国民と国民とのあいだの交流がさまざまな面で深く、密接になっており、自他の歴史的な関係を理解することが求められている。わたしたちが生きている現代は、過去のできごとの積み重ねの上に成り立っている。その意味で、歴史は過去と現在との対話である。また、歴史には、未知のことも多くあり、新しい事実関係が発見されたり、時代とともに評価が変わることもある。授業では、日本の歴史のなかで興味深い事件やできごと、歴史上の人物をとりあげて、歴史上のできごとの背景や、激動の時代を生きた人びとの生き方、歴史上に果たした役割を検証していく。		
8. 学習目標	1) 日本史の基本事項（概念）について理解し、説明できる。 2) 日本史上の出来事や時代背景について歴史学の観点から見たり考えたりすることができる。 3) 日本史上の人物の考え方や生き方を知り、自分の考え方や生き方を省みることができる。		
9. アサイメント（宿題）及びレポート課題	講義では上記をリーディングアサインメント（RA）と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習ののちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小風秀雅編『大学の日本史 教養から考える歴史へ 4 近代』山川出版社、2016 年。 【参考書】 小風秀雅編『日本近現代史』放送大学教育振興会、2009 年。 荒木敏夫他『日本史のエッセンス』有斐閣、1997 年。 竹内誠他編『教養の日本史』東京大学出版会、1987 年。 島海靖『もういちど読む山川日本近代史』山川出版社、2013 年。 加藤陽子『それでも日本人は「戦争」を選んだ』新潮社、2016 年。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・日本史の基本事項（概念）について理解することができたか。 ・日本史上の出来事や時代背景について歴史学の観点から見たり考えたりすることができたか。 ・日本史上の人物の考え方や生き方を知り、自分の考え方や生き方を省みることができたか。 ○評定の方法 ・平常点（積極的参加度・授業態度・発表・発言等） 30% ・課題（中間レポート・ワークシート等） 30% ・期末評価（レポート・試験等） 40%		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。 ①授業に集中してください。（積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁） ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。（事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください）正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 また、教員は次のことを実行します。 ①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 ②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加（発言・発表等）できる双方向対話型の学習環境を作ります。 ④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話（メール・通話）の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。 本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくは e-mail にて対応します。 toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション（シラバスを必ず持参すること。コピーなども可。） ・歴史学の観点から考えることの大切さ① “江戸時代”はどんな時代か	事前学習	教科書 pp. 13-17. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。

第2回	開国と開港—欧米外圧の再検討— 不平等条約はなぜ必要とされたのか？	事前学習	(第2回から第15回の事前学習) 前時間に配付するリーディングアサインメント (RA) の各設題に自分なりの解答をする。教科書 pp. 6-20. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第3回	交通革命と東アジア—香港・上海・横浜・長崎—① ジャーナリズムの巨人ピューリッツァーが仕掛けた一大イベント	事前学習	教科書 pp. 24-36. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第4回	交通革命と東アジア—香港・上海・横浜・長崎—② 交通革命によって日本が得た地政学的特性とは	事前学習	教科書 pp. 24-36. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第5回	天皇の外交と国際認識—1868～94年	事前学習	教科書 pp. 52-57. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第6回	アジアの国際秩序と日本—琉球と朝鮮をめぐって① 東アジア国際秩序と西欧国際体制	事前学習	教科書 pp. 59-61. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第7回	アジアの国際秩序と日本—琉球と朝鮮をめぐって② 東アジア国際秩序の動揺	事前学習	教科書 pp. 62-72. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第8回	条約改正と万国対峙	事前学習	教科書 pp. 79-93. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第9回	歴史学の観点から考えることの大切さ② 一次資料と史料としての映像について	事前学習	リーディングアサインメント (RA) の問を解答する。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第10回	憲法発布と近代国家の確立	事前学習	教科書 pp. 94-109. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第11回	日清戦争と二十世紀の世界秩序 日清戦争を機に何が変わったのか	事前学習	教科書 pp. 110-124. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第12回	日露戦争前後の日本外交① 初期議会期の藩閥政府と民党	事前学習	教科書 pp. 125-130. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第13回	日露戦争前後の日本外交② 多角的同盟・協商網の模索と挫折	事前学習	教科書 pp. 135-137. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第14回	日露戦争前後の日本外交③ 韓国併合への道	事前学習	教科書 pp. 130-134、pp. 137-140. を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第15回	歴史学の観点から考えることの大切さ③ 科学技術の発達の背景を考える—ビタミンとオリザニン—	事前学習	リーディングアサインメント (RA) の問を解答する。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
期末試験			